

農業の未来を担うフレッシュな顔ぶれ

弊社仕入先の肥料メーカーにおいて、2020年度も新たに社員を採用されている（弊社は新卒採用はありませんでした）。見習い期間を経て正式に所属先が決まり業界デビューとなるが、かかるコロナ禍の中で各ブロックの菱肥会やメーカー主催の会合が中止・延期となり、なかなか得意先へのご紹介が叶わない現状となっている。そこで当紙にて未来あるフレッシュな社員をご紹介させて頂きたい。これから皆様のご了解のもと、順次お伺いして参ります。厳しくも温かい目でご指導・ご鞭撻を賜りたく、どうぞ宜しく御願い申し上げます。

(①氏名 ②所属先 ③出身地 ④特技 ⑤趣味 ⑥座右の銘 ⑦モットー ⑧自己PR)



清和肥料工業株式会社
 Seiwa Fertilizer Ind. Co., Ltd.

設立：1950年 本社：大阪府大阪市
 肥料から農産物、化学品まで 農業の全てをサポート



①中嶋 友咲
 ②九州工場 製造課
 ③京都府京都市
 ④水泳
 ⑤ランニング
 ⑥継続は力なり
 ⑦感謝の気持ちを忘れずに

⑧職場内でのコミュニケーションを取り、よりスムーズに製品を製造できるよう努力いたします。よろしく御願いいたします。



①田辺 武士
 ②九州工場 製造課
 ③滋賀県長浜市
 ④アラームの5分前に目が覚める
 ⑤釣り（北九州に来てから始めました）

⑥明日には明日の風が吹く
 ⑦ささいな事から喜びを
 ⑧よりよい肥料を製造するために日々知識を深めていきたいと思えます。



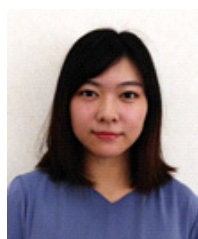
太陽肥料株式会社

設立：1936年 本社：茨城県神栖市
 肥料を通じて農業を支え、食を支える



①藤平 瑞紀
 ②営業部
 ③千葉県茂原市
 ④顔と名前を覚える。
 ⑤ドライブ、音楽鑑賞、スポーツ観戦
 ⑥実るほど頭を垂れる稲穂かな

⑦客観的な視点を持つこと。前向きな考え。
 ⑧現場に寄り添い、ベストな提案ができるよう日々精進してまいります。



①清野 瑠美
 ②営業部
 ③秋田県
 ④スポーツ
 ⑤映画鑑賞
 ⑥笑う門には福来たる

⑦笑顔で明るく元気よく
 ⑧たくさんの人を笑顔するお仕事ができるように頑張ります

(次ページに続く)



エムシー・ファートコム株式会社

設立：1966年 本社：東京都千代田区

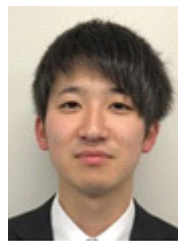
ファースティライザー・コミュニケーションの実行を通じて日本の農業の発展に貢献



- ①小鹿 幸帆
- ②技術普及グループ
- ③愛知県名古屋
- ④まつ毛に爪楊枝を乗せること。畝立て
- ⑤ボーカロイド楽曲を聴くこと
- ⑥人生にアンコールなど無い

⑦座右の銘に同じ

⑧お客様に商品の良さをしっかり伝えられるよう精進します。宜しくお願い致します。



- ①松村 侑哉
- ②技術普及グループ
- ③青森県八戸市
- ④まぶたを一瞬で一重から二重にできる事
- ⑤自動車の長時間運転、テニス
- ⑥本当に大事なことで、格好つけ

たまやれることは一つもない

⑦安全運転

⑧現場での作業を素早く、正確に行える技術普及を目指します



- ①津木 悠吾
- ②商品開発グループ
- ③和歌山県有田川町
- ④うどんの早食い
- ⑤釣り、テニス
- ⑥やる前からあきらめない
- ⑦誰とでも笑顔で接する

⑧より良い製品の開発に全力で努めます



- ①藤野 竜樹
- ②経理グループ
- ③埼玉県深谷市
- ④卓球
- ⑤筋トレ、バスケ
- ⑥七転び八起き
- ⑦1つ1つの業務を丁寧に

⑧日々の支払いや請求を正確にこなします

本格的に穀粒判別器導入始まる

農水省は農業競争力強化プログラムに盛り込まれた農産物の検査方法の見直しを受けてコメ等の農産物検査について合理化を図るため、2019年11月29日付けで標準計測方法、鑑定方法及び農産物検査に関する基本要領の改正を行い、農産物検査の単独の規格項目となっている「死米」及び「着色粒」の鑑定に穀粒判別器を活用できるようにした。さらに単独の規格項目となっていない「胴割粒」及び「砕粒」についても、2019年8月に穀粒判別器に関する検討チームにおいて「被害粒等計の判定を行う際の参考として穀粒判別器による測定値が農産物検査に活用可能」と判断され、穀粒判別器による胴割粒及び砕粒の混入割合の測定を行う際の取扱いについて定められた。昨年度より機器メーカーは仕様確認のため農水省にテスト申請をされており、本年はまさに本格的な導入元年と言えよう。穀物検査員の有資格者数は高齢化に伴い減少、目視による等級判断は個人差があるのではないかという意見もあり、器械に委ねる方向性は間違いのない動きなのだろう。ただし、この判別器もタダではなく高価な買い物となるのが懐の痛いところだ。この判別器の市場にもスマートフォンを使用したAI米粒等級解析を提供する企業もあり、使用料についてはリーズナブルなのかどうかは使用者が判断する事となるが月や年の使用パターンを選択出来るようになっている。この分野については日進月歩が続いているようだ。ひと昔前までは国の検査官が目利き検査を行ってきたが、民間検査を経て機械が判定する世の中に時代は移ろいでいく。農業の機械化の流れは留まる事を知らないだろう。

台風9号、10号と続けて強い勢力の台風が襲来しました。台風シーズンの9月も海水温度が高く例年以上に勢力が強まりそうとの事です。早めの避難と対策で命を守る行動を。編集事務局：南部、助川
電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>